

氏名 皆川 寛
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博甲第 4408 号
学位授与の日付 平成23年9月30日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Radiological and Clinical Results of Rotational Acetabular Osteotomy Combined with Femoral Intertrochanteric Osteotomy for Avascular Necrosis Following Treatment for Developmental Dysplasia of the Hip
(先天性股関節脱臼後に生じた高度骨頭変形に対する大腿骨骨切り術を併用した寛骨臼回転骨切り術の治療成績)

論文審査委員 教授 大塚 愛二 教授 藤原 俊義 准教授 難波 祐三郎

学位論文内容の要旨

【目的】当科では先天性股関節脱臼の加療後に大腿骨頭壊死を生じ高度骨頭変形をきたした股関節症症例に対して、術前の関節造影に基づいて大腿骨骨切り術を併用した寛骨臼回転骨切り術による治療を行ってきた。今回その治療成績について調査検討した。【対象】1991年から2005年まで、当科で加療した先天性股関節脱臼の治療歴のある16例16股を対象とした。先天性股関節脱臼後の骨頭変形を分類したKalamchi & MacEwen分類では、Ⅲ型が8例、Ⅳ型が8例であった。手術時年齢は平均23歳(13歳から41歳)で、観察期間は平均39ヵ月(11ヵ月から97ヵ月)であった。術前のX線像における股関節症病期はTonnis分類Ⅰが14股、Ⅱが2股で、全例股関節痛を有していた。【方法】X線学的評価については臼蓋の被覆、大転子高位および骨頭の内方化の指標としてCEA(center edge angle)、ARA(acetabular ridge angle)、ATD(articulo trochanteric distance)を、閉鎖孔外側と骨頭内側間距離をOFHD(obturator foramen head distance)、X線正面像の関節裂隙を測定し、臨床評価としてHarris Hip Score(HHS)、脚長差をそれぞれ術前、最終調査時に検討した。【結果】X線学的評価としてCEAは平均4.4°から平均35.5°、ARAは平均-32.4°から平均-8.9°、ATDは平均-11.1mmから平均12.4mm、OFHDは平均18.3mmから平均14.6mmと改善していた。関節裂隙は平均4.1mmから平均3.9mmと有意な変化はなく保たれていた。臨床評価としてHHSは平均75.4点から平均96.4点、脚長差は平均20.3mmから平均9.7mmと改善していた。【結語】股関節造影に基づいた大腿骨骨切り術を併用した寛骨臼回転骨切り術は、高度骨頭変形を有する股関節症に対して、X線学的にも臨床的にも良好な結果を得られ有用であった。

論文審査結果の要旨

本研究は、先天性股関節脱臼の加療後に大腿骨頭壊死を生じ、高度骨頭変形をきたした股関節症症例に対し、術前の関節造影に基づいて大腿骨骨切り術を併用した寛骨臼回転骨切り術による治療を行った場合の術後成績を調査したものである。X線像から得られる各種パラメーターおよび臨床評価について、従来法では得られなかったような良好な結果を得ていることを示した。これは、先天性股関節脱臼の加療後に大腿骨頭壊死を生じ、高度骨頭変形をきたした股関節症の治療に関して、同法による手術が有益であることを示した重要な研究であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。